

### 12月の管理

#### 活着までは、湛水管理が基本

平成26年産イグサの植え付けがスタートしました。活着がスムーズに出来るよう水管理に心がけましょう。



#### 1. 水管理

- ・ 植え付け後は、湛水状態を保ち活着の促進を図りましょう。
- ・ 機械移植の場合は、特に活着に時間がかかりますので、湛水管理を行いましょう。
- ・ 寒波襲来など、寒さが厳しくなる場合は深水管理に努めましょう。
- ・ 長期湛水による土壌還元には注意し、水の入替えによる酸素補給に心がけましょう。
- ・ 早期落水は、活着が不揃いとなりやすく、また雑草の発生を早めることとなりますので注意しましょう。



鳥害(カモの被害)を気にする余り、植え付けからそのまま無湛水で管理していると、活着にバラツキが生じて初期生育はよくありません。

対策としては、糸(デグス)を1~3m間隔で張り巡らせたり、袋旗を立てることで飛来を軽減する事ができます。

#### 2. 除草剤

- ・ 植え付け後(植付~活着期)の初期除草剤は下記の通りです。雑草発生前の処理に努めましょう。
- ・ 植え付け直後に雑草対策を図ることで、雑草の発生を抑制することが望めますし、今後の計画的な除草体系を図る上で重要なポイントとなります。
- ・ イグサ除草剤は、基本的に雑草発生後の殺草効果を期待出来る剤はありませんので、必ず発生前に除草対策を図りましょう。

除草剤名	使用時期	散布量 / 10 a	注意事項
ベクサーフロアブル	雑草発生前	500 mL	原液を湛水散布。
ベクサー1kg 粒剤 キルクサ1kg 粒剤	雑草発生前	1kg	湛水散布。

## ストップ! 農作業事故

人間工学専門家 石川文武

### 危険予測を習慣付けよう

園芸作・果樹作・畜産などの通年作業のある農業を除けば、忙しい時期は過ぎたのではないのでしょうか。春夏秋の作業を振り返って、「ヒヤリ」と思ったことはありませんでしたか。「いつもヒヤリと感じているから慣れてしまった!」というのは困ります。

「ヒヤリ」で済んだのには何かの理由があります。過去の体験から「このままいくと・・・?」と思い出して事前に回避行動をしていたからです。

農作業事故が確実に減っているとはいええない現実で、どうすれば減らすことができるか考えましょう。わざと事故を起こす人はいないのですが、気が付いたら事故になっていた、というのが現実です。だから事故を起こしてもよいとはいえません。身に迫りくる危険の芽を事前に摘むことができればヒヤリ体験だけで済むでしょうが、危険の芽を察知できなければ事故が現実となってしまいます。収穫の喜びには、収穫物の質と量だ

けではなく、けがなく、体調も崩さず、作業をすることが一番です。質と量にこだわって、無理な作業を行い、計算できないほどのダメージを受けるのでは喜びは付きません。

「危険予測」とは「もしかしたら危ないことがあるかもしれない。その場合に危険を回避するための行動は、こうしよう」ということを考えればいいのです。「危ないことが起こるはずない」という気持ちは捨てましょう。集中力(安全意識)が低下すればタイミングのいい処理が遅れ、失敗につながりやすくなります。事故を起こしてから反省するのは遅いのです。危険予測は損失を防ぐ第一歩です。

安全第一を忘れないでください。



**乙女座**  
8/23 ~ 9/22

- 【全体運】 ささいなことで腹を立てやすいよう。笑顔を手掛けると開運のきっかけ。
- 荷物の整理や大掃除にも同様の効果が

- 【健康運】 食べ過ぎに注意。特に夜中の飲食は×
- 【幸運を呼ぶ食べ物】 レンコン